

平成30年度 第5学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業・学力調査についての 分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的 指導の計画	成果○ 課題●
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の結果から、「関心・意欲・態度」が、とても高いことが分かった。</li> <li>・学力調査の結果から、「話す・聞く」の正答率8割以上と基本的な話す聞く力は身に付いていることが分かった。しかし、「書く」技能に関しては、都の正答率より上回っているが、期待値を下回った。自分の経験したことや考えたことを必要に応じて要約して書いたり、目的に応じて詳しく書いたりする力が十分とは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読みや筆順に意識をもって練習に取り組ませる。また漢字や熟語の意味や反対語などを使って、文章表現する機会をつくり、言語事項についての知識・理解を図っていく。</li> <li>・読書活動を引き続き進め、文章の内容理解や自己の考えを書いて発表する機会を作っていく。目的や根拠をもって自分の考えを書いたり、グループで読み合う活動や類義語辞典を活用することで様々な表現方法に触れられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を活用して、読む活動の機会を多くする。また、新聞を実際に書き、論理的思考力を育んでいく。</li> <li>・類義語辞典に触れる時間を作ることで、様々な言葉に触れる時間を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きは、毎日の宿題や小テストを通して継続的に指導したことで、定着を図ることができた。</li> <li>○自己の考えを発表する場を設けたことで、目的や根拠をもって意見を伝合ったり、発表したりする力を高めることができた。</li> <li>●論理的思考力を育むために、読む活動を多くするだけでなく、筋道を立てて考える方法や学習計画づくりの場を設定し、児童が目的意識を十分にもって学習を進めていく必要がある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の結果から、「関心・意欲・態度」が、とても高いことが分かった。「技能」「思考・判断・表現」面の正答率が8割と高く、基礎・基本となる「知識理解」に関しては正答率が6割であった。</li> <li>・資料の読み取りや活用する力については、6割と期待値を下回った。必要な情報を資料から適切に読み取ることも課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から情報を読み取る授業を継続する。正しく伝えることができるように、読み取ったことを書く、話すなどの活動を充実させる。</li> <li>・多様なまとめ方があることを指導し、伝えたい内容を相手に合わせて選択し、表現する力を高めていく。</li> <li>・テレビや新聞で話題になった社会的事象を取り上げ、地図帳や資料集などの資料と関連付けて、社会の中で起こっている事象について理解を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・47の都道府県の位置、名所、特色について調べる。</li> <li>・出前授業を活用し、専門家から話を聞く活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料から多くの情報を読み取る授業を丁寧に行ったことで、複数の資料を関連付けて読み取ることができるようになった。</li> <li>○専門家から話を聞く活動を取り入れたことで、社会的事象の理解を深めることができた。</li> <li>●社会の中で起こっている事象を、児童が自分事として捉えるために、まとめる段階では、児童が切実感をもって考えることのできる資料の工夫が必要である。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月のベーシック診断シート結果正答率80%以上の児童58%、平均正答率74%</li> <li>・7月ベーシック診断シート結果正答率80%以上の児童75%、平均正答率82.7%</li> <li>・1学期ワークテスト結果思考力を見る問題70点以上の児童94%、技能98%</li> <li>・全体的に学習意欲の高い学年であり、発表なども進んでできる。しかし、ノートを取り方などまだ指導が必要な児童もいる。</li> <li>・既習事項の中で定着の低い単元は立体、面積など図形を活用した単元であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対しての意欲をもたせるために、生活の中での算数を意識させたり問題文を分析するための解法の手順を確実に身に付けさせる。</li> <li>・自分の解き方を説明する場面では、図や算数的用語など意識して使うように指導する。</li> <li>・ペア、グループでの話し合いを取り入れ、自分や友達の考えを組み合わせたり、統合させたり、精選したりすることで問題解決をさせていく。</li> <li>・学習内容習得のために、東京ベーシックドリルを使った復習を適時行う。</li> <li>・学習感想などを毎時間書かせ、ノートの提出とコメントの記入を行う。</li> <li>・図形を活用した学習では、具体物・半具体物を利用する。また課題解決のために作図を常に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展コースの児童には、自力解決を目指すためにヒントを提示する。</li> <li>・補充の必要な児童には前学年の内容を適宜復習させる。特にわり算の筆算では計算の流れを意識させ、丁寧に筆算を書くことを指導する。また、問題文の読み取りを丁寧にやり、具体的に問題を把握できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのコースの児童も意欲をもって学習に取り組んでいる。問題解決や自分の考えを図を使ってわかりやすく説明できる児童が増えた。友達の説明をよく聞いて自分の説明に生かしている児童が多い。</li> <li>○くじらコースの児童には黒板を使って筆算を全員で確認させるなど、何度も計算の仕方を復習し、定着を図った。また、以前よりも根気よく問題に取り組めるようになった。</li> <li>●立式はできても計算で間違ってしまう児童がいるので計算の見直しを細かく行うようにさせたい。</li> </ul>

平成30年度 第5学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の結果から「関心・意欲・態度」が、とても高いことが分かった。「知識理解」と「読み取る力」に関しては、正答率が8割と高い傾向がある。</li> <li>・「技能」の正答率は、6割と期待値を下回った。問題に対して多様な実験方法を考え、実験や観察の過程を適切に記録し、筋道を立ててまとめる力が十分ではない傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに、学習のまとめの後の問題演習を通して知識の定着を図る。</li> <li>・実験・観察の一層の充実を図る。実験で、違いや変化に気付かせ、結果と考察を分けて記入させるようにする。実験を通して予想や仮説を検証できるようにするため、問題の把握や考察の方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業を活用し、専門家から話を聞いたり実物に触れたりする活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに学習のまとめの後の問題演習を通して、学習内容を整理しながら考えることができ、知識の定着を図ることができた。</li> <li>○問題解決型学習のプロセスを丁寧に指導したことで、目的意識をもって観察や実験を行うことできた。</li> <li>●実験の結果から考察を自分の言葉でまとめる力を付けるために、文型を示したり、考えたことを、友達と十分に交流する必要がある。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全員の児童が、正しい音程で歌うことができる。</li> <li>・リコーダーの運指をほぼ理解し演奏することができる。</li> <li>・〔共通事項〕と曲想とのかかわりについて考えながら学習することができる児童は、10%程度である。</li> <li>・鑑賞では、知覚・感受したことを関わらせながら記述することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動では、音楽表現の工夫をする観点を明確にした発問を心掛け、工夫した結果が児童に分かるようにする。</li> <li>・鑑賞の学習では、知覚・感受したことをペアやトリオで交流することを通して音楽用語を適切に使いながら活動する場を毎時間設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループ活動を通して音楽用語の使用等について共有することができるようにする。</li> <li>・音楽表現の質が高まるような声掛けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員が拍の流れにのって正しく歌ったり演奏したりすることができた。</li> <li>○ねらいを明確にしてグループやペア、トリオの活動を設定したことで、児童の音楽表現の質が高まり、友達の演奏をよく聴き、そのよさを音楽を形づくっている要素や奏法等から根拠をもって説明する力が付いた。</li> <li>●音楽の構造と曲想とのかかわりについて自分の考えをまとめる力を付けるために、音楽について根拠をもって説明するために必要な語彙を増やす指導の工夫が必要である。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動糸のこぎりなど、新しい用具や表現技法に関心をもって、意欲的に作品づくりに取り組むことができる。</li> <li>・学習のねらいに沿って、自分なりの表し方を追究しながら活動することができる児童が多い。</li> <li>・柔軟に発想したり想像を広げたりして、オリジナリティのある表現をすることが難しい児童が10%弱いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品づくりの事前の学習として、表現したいことのイメージやアイデアの幅を広げるためのブレインストーミングの活動を取り入れる。その際に、発想のきっかけとなる資料の十分な提供や、友達との話し合いや発表の活動を行うことで、様々な考えを共有することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・針金など、扱いの難しさや手ごたえのある材料を取り入れ、新しい材料や表現技法を経験させるとともに、試行錯誤しながら自分なりの表し方を追究できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品づくりの導入に、表現技法を体験する小課題やイメージを広げるためのワークシートを使った課題を取り入れることによって、表したいことのイメージをもって活動に取り組むことができるようになった。</li> <li>●様々な表現技法を組み合わせたり応用したりするなど、学習したことを活用する探求的な表現力を付けるための指導の工夫が必要である。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理、裁縫ともに、作業をする時間を十分に確保している。</li> <li>・どの作業にも意欲的に取り組むが、技能の個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差に対応するために、個別指導、グループづくり等に一層の配慮をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統的な食材についての授業を行うことで、興味関心を高め、短い調理時間でも意欲的に集中して行うことで技能も高められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人差に対応するように、個別指導、グループづくり等に配慮をしたことで、学び合いが活発になり、技能の高まりが見られた。</li> <li>●日常生活と関連付けた学習をさらに充実させ、実感の伴った学習にする工夫が必要である。</li> </ul>

平成30年度 第5学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上運動、体づくり運動などに取り組む、意欲は高かったが、周囲と協力して活動に取り組む意識が十分とは言えなかった。</li> <li>積極的に運動する児童が多いが、個人差も大きい。遊びやゲームを通して運動に親しみ、基礎的な体力を向上させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボール運動領域では、チームタイムを活用し、作戦について話し合ったり、振り返りをしたり、互いにポイントをアドバイスしたりする活動を取り入れる。</li> <li>日常の遊びの中に取り入れられる動きについて紹介する。中休みや体力向上タイムで行えるような運動を紹介することによって日常化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果を基に、個別に体力向上のめあてを立て、計画的に、継続して運動に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボール運動領域では、チームタイムを取り入れたことで、互いに動きのポイントをアドバイスしたり、チームの力を高めるための作戦を話し合ったりする力が身に付いた。</li> <li>○休み時間の外遊びや週1回の体力向上タイムでの体づくり運動を継続的に行ったことで、基礎的な体力の高まりが見られた。</li> <li>●運動の楽しさに触れさせる機会を増やすなど、日常の中に運動を取り入れる習慣をさらに付けさせるための工夫が必要である。</li> </ul>
----------------	--	--	--	---